



第40号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号
TEL 078-341-5949

モダン寺新聞

別院だより

六月十六日(日)午後一時半より、
神戸別院三階本堂において永代経法要
が勤修されました。

そもそも、浄土真宗における『永代経』
は、亡くなられた方のご命日をご縁と
して聞法の機会を得て、お念佛の尊い
み教えを、この私の伝えてくださった
有縁の方々のご遺徳を偲び、私自身が
聞法に励み、そのみ教えを今度は子や
孫に伝えていくことが『永代経』の意
味するところです。また、永代経で頂
いたご懇志は永代にわたって読経をし
ていき、お念佛の道場である皆さまの
お寺をお守りしていくために使われて
いきます。それは、お念佛の教えを永
代に受け伝えていくことに他なりません。
淨土真宗の教えとは、阿弥陀如來
のはたらきによって恵まれた『南無阿
彌陀仏』のお念佛によって、淨土に往
生し、仏さまにならせていただく道で
す。

私たちが手を合わせ、お念佛を申す
ことのできるのは、浄土真宗の教えを
よろこび、多くの方がお念佛の道を力
強く歩んでいかれるからです。

午後一時半、喚鐘の音が堂内に鳴り
響き、讃嘆衆・結衆の順に内陣へ入堂し、
法要が始まりました。

法要の始めに滝口隆誠輪番が表白の
中で、「淨土へ往生された人々のみ跡を
慕い、そのお導きを仰ぎながら命の限
り、ご法義を聴聞し、安養のお淨土で
共に相まみえます」と、述べました。

ご法話の中で川本師は、「年を取ると
私の身の回りから一つ一つ奪われてい
く。例えば、食事ひとつにしても若い
ころはお肉でもたくさん食べることができ
た。しかし、年齢を重ねると、それ
も出来なくなる。どこかに行くにして
も、足腰が弱ると、もうどこにも行き
たくない。このように、楽しみが奪わ
れていく。もし、ここでお念佛がないと
なるとやりきれない思いになる。これ
が『南無阿彌陀仏』の有り難さであり、
称えずにはおられない私となつてく
る」と話されました。

このご法話を聴聞された皆さんの中
からは、「南無阿彌陀仏」と、お念佛の
声が聞こえてまいりました。



法要中は結衆がご本尊の周りを散華
をしながら回る行道と呼ばれる作法を
ご利用してのご法要となりました。

法要後は川本法綱師(多可組西教寺)
をご講師にお迎えして、ご法話を頂戴
いたしました。

降誕会

梅雨入り間近となつた五月二十六日（日）、本願寺神戸別院前庭・三階本堂で宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いする「降誕会（こうたんえ）」の法要が勤まりました。京都の西本願寺でも毎年五月二十一日には盛大に降誕会のご法要がお勤まりになります。

親鸞聖人は今から八四〇年前に京都の日野の里にご誕生になられました。

降誕会の前日には、神戸別院仏教青年会の皆さんが別院の前庭にある親鸞聖人の銅像のお身拭いや、植え込み、街路の清掃を清掃してくださいました。とてもきれいで輝いて降誕会に相応しい様子を感じられました。



「お身拭い」の様子

の作法があり、この大役には本年もお抹茶の接待をしていただき、兵庫大学の茶道部の皆さんに務めていただきました。皆さん緊張した表情で伝供にと捉え、私たちの「生死一如」というものは、何によつて生きていくのか、どういうみ教えによつて生きていくのか……。

『死』というのも私が還つて往く如く、死んでいく道であり、それを明らかにされたのが宗祖親鸞聖人さまです。』と力強くお話になりました。

また、ご法話の最後には「まず、私がお勤めの後は、伊達宣信師（北摂組・光明寺）をご講師にお迎えしてご法縁を頂戴いたしました。ご法話の中で伊達師は、「私たちは生死一如の作法があり、この大役には本年もお抹茶の接待をしていただき、兵庫大学の茶道部の皆さんに務めていただきました。皆さん緊張した表情で伝供にと捉え、私たちの「生死一如」というものは、何によつて生きていくのか、どういうみ教えによつて生きていくのか……。



職員も頑張りました



手を合わされる参拝者



伝具に進む茶道部の学生



講師の伊達師

前庭でのお勤め後、場所を三階の本堂に移し、『正信念仏偈』のお勤めで法要が勤まりました。法要の最初に「伝供（でんぐ）」（供物などを順番に手渡して、これを尊前にお供えすること）

お勤めの後は、伊達宣信師（北摂組・光明寺）をご講師にお迎えしてご法縁を頂戴いたしました。ご法話の中で伊達師は、「私たちは生死一如の作法があり、この大役には本年もお抹茶の接待をしていただき、兵庫大学の茶道部の皆さんに務めていただきました。皆さん緊張した表情で伝供にと捉え、私たちの「生死一如」というものは、何によつて生きていくのか、どういうみ教えによつて生きていくのか……。

法要中は、参拝者の皆さん大きな声で『正信念仏偈』をお読みになり、親鸞聖人のご誕生に相応しい盛大なご法要となりました。また、法要の中休みには、兵庫大学の茶道部によるお抹茶の接待も行われました。接待をお受けになられた参拝者の中には「今年もお抹茶の接待を楽しみにしていました。」と話される方もおられ、皆さん大変満足され

ておられました。茶道部の学生の皆さんも「このような機会を与えて頂いてとても感謝しています。」と話されました。

お勤めの後は、伊達宣信師（北摂組・光明寺）をご講師にお迎えしてご法縁を頂戴いたしました。ご法話の中で伊達師は、「私たちは生死一如の作法があり、この大役には本年もお抹茶の接待をしていただき、兵庫大学の茶道部の皆さんに務めていただきました。皆さん緊張した表情で伝供にと捉え、私たちの「生死一如」というものは、何によつて生きていくのか、どういうみ教えによつて生きていくのか……。

この時に信心を頂戴することが大切です。その後は、全て阿弥陀さまにお任せをするだけです。』とご法話の最後を締めくくられました。降誕会を通してお念佛を申す尊いご縁に出会えたことを皆さん喜んで別院を後にされました。

第一土曜仏教講座

六月一日（土）神戸別院三階本堂において、遠藤久和氏（京都の扇子商・遠藤新兵衛商店代表取締役）を講師にお迎えして、第二土曜仏教講座が開講されました。

毎年、神戸別院の報恩講法要の出勤法中にお配りしている、中啓（ちゅうけい）も遠藤新兵衛商店さんにお作りいただいております。



講師の遠藤氏

当日は、扇子や中啓の歴史や出来上がるまでのお話を頂いた後に、実際に扇子を参拝されている皆さんで作る時間もございました。

遠藤氏の説明を受けながら、皆さん一所懸命作っておられましたが、なかなか思つたようになると出来ませんでしたが、遠藤氏のアドバイスもあり、最後には皆さん上手に作られて満足しておられる様子でした。



貝は見つかるかな？

五月のモダン寺土曜子ども会は遠足での形海水浴場に潮干狩りに行きました。的形海水浴場に着き、まずお弁当を食べましたが、子供たちはお弁当を食べながら早く海に入りたくてしかたない様子でした。

さて、お弁当も食べ終わり皆、一斉に海へと貝を探しに行きました。

探してみるとなかなか貝が見つかりません。あつたとしても中身が入ってなかつたり、ただの石ころだつたりと見つけるのがとても難しかつたようです。それでもなんとか少しづつ貝を見つけることが出来ました。

モダン寺土曜こども会

春季彼岸会

去る二月十九日（火）～二十一日（木）の中日をはさんだ三日間、神戸別院三階本堂において、「春季彼岸会」の法要が勤まりました。京都にある西本願寺でも、毎年三月十八日（または十七日）のお晨朝から第七日の日中法要まで七日間お勤まりになります。

淨土真宗でいうお彼岸とは、仏徳讚嘆・御恩報謝の法要です。彼岸は極楽浄土を指し、悟りの世界を意味しますが、仏説無量寿経には『淨土は往き易くして人なし』と説かれております。

しかし、親鸞聖人のお勧め下さる淨土真宗の御法義は、お念佛をよろこぶ信心一つで必ず淨土に生まれ、速やかに仏と成らせていただく身の上であるとお聞かせいただきます。



法要の様子

普段気軽に食べている貝ですが、自分の身を守るために砂深くに隠れている貝を探すのがどんなに大変であるか、また身を守ろうと隠れている貝を食べるという事、命を頂くという事の有難さを考える良い体験になつたとのではないかと思います。



身振りを交えてのご法話

お彼岸には私たちも多くのご門徒の皆さまのお宅にお参りをさせて頂き、共にお念仏を申す尊いご縁を頂戴させていただきました。お彼岸の期間中、たくさんの方が別院に足を運ばれました。

別院の法要期間中は、午前七時より本堂において、『般舟讚（はんじゅさん）』のお勤め、午後一時半より『讚仏偈（津曲りつきよく）』のお勤めで法要が勤まりました。午後の法要終了後は、森本覚修先生（滋賀教区・愛知下組西光寺）より、ご法話を頂戴いたしました。

森本先生はご法話の中で、「如來さまのお救いは、私ども悪人をこそお救いくださる。それを受けてこの私が称える念佛を真の念佛と言う。」と、私たちが称えさせていただくお念佛の意義をお話になりました。

別院行事予定

七月

第一土曜仏教講座

六日(土)午後一時半～

◇講 師◇(株)浜屋神戸本店営業主任

上 新 真 人 氏

別院仏婦定例法座

七日(日)午後一時半～

◇講 師◇播磨東組

岩 田 正願寺

天 野 勝 師

常例法座

十五(月)・十六日(火)午後一時半～

◇講 師◇神姫組

道 元 徹 善導寺

天 野 真 隆 師

八月

第一土曜仏教講座

三日(土)午後一時半～

◇講 師◇神姫組

道 元 徹 泰法寺

天 野 真 隆 師

盂蘭盆会

十五日(木)午後一時半～

◇講 師◇本願寺神戸別院輪番

滝 口 隆 誠 師

尚 別院仏婦定例法座・常例法座
座は八月は休座となります。

ご案内

来る八月一日(木)～三日(土)の

三日間、神戸別院において暁天講座
(ぎょうてんこうざ)がございます。

講座の詳細は左記の通りです。

一日(木)午前七時～

◇講 師◇阪神西組 常宣寺

光 森 常 之 師

二日(金)午前七時～

◇講 師◇播磨東組 妙覺寺

森 田 直 道 師

三日(土)午前七時～

◇講 師◇神戸湊組 光明寺

山 西 昭 義 師

法要期間中は、毎座終了後に朝粥の
ご用意を致しておりますので、どうぞ皆
さまお誘い合わせの上お参りください。

お盆参りのお知らせ

さて、今年もお盆参りの時期が近付いてまいりました。今年も例年の如く八月十一日～十五日の期間中に皆さまのお宅にお参りをさせていただきます。お参りの日時につきましては、別院よりご案内のお葉書きをお送りさせていただきます。ご都合の悪い場合は、お早めにご連絡いただきますようお願い致します。

尚、お参りの時間については当日の交通状況や天候条件によってお約束出来かねますのでご容赦ください。

帰敬式のご案内

来る平成二十五年十一月二十六日(火)～二十八日(木)神戸別院において宗祖親鸞聖人報恩講法要をお勤めいたします。

報恩講とは、私たちにお念仏のみ教えをお示しくださいました宗祖親鸞聖人のご恩に報いる法要です。

また、報恩講の中日の二十七日(水)に帰敬式(おかみそり)を実施いたします。

帰敬式とは、親鸞聖人のお示しくださったみ教えを心の依り所として、今後の人生を力強く生きていく決意をあらたにする儀式です。是非ともこの機会にお受けください。報恩講法要は、門信徒とともに最も大切なご法要です。門信徒ともに最も大切なお法要ですので皆さまお誘い合わせの上お参り下さいますようご案内いたします。

四月より奉職させていただくことになりました。四年間、築地本願寺での経験を活かし、兵庫の新しい環境で成長させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。



兵庫教区朝来組・勝賢寺
虎城 正道
(こじょう まさみち)



滋賀教区長浜組・因乗寺
湯次 行範
(ゆすき ゆきのり)

新入職員のご紹介

退 職

四月より神戸別院で奉職させて頂くことになりました湯次と申します。初めての社会人で分からぬ事ばかりですが、どうぞよろしくお願い致します。

三月三十一日付で、長年に渡り勤務いたきました尾井秀瑛氏(副輪番)、小野崇暁氏(参勤)が退職致しました。なお、尾井秀瑛氏は非常勤として、出勤されます。